



平成 13 年 3 月 20 日
 第 52 号
 発行所 木 武 一 所
 発行 52 頁
 第 52 号

明るい 太陽に向って

京西小学校教員 朝倉正教
 京西小学校は創立百二十年余、明治十二年に創設され、二十世紀をまたいで、二十一世紀に飛躍しています。

これまで数多くの子どもたちが京西小学校を巣立って行きましたが、昔も今も子どもたちの夢は、この小学校のように大きくはばたいていきます。

子どもたちの将来の夢は、男の子はスポーツ選手、女の子は最近ではファッション系の職業が多いようです。昔と比べると、今の子どもたちは現実をしっかりと見つめていて、例えば、商店など親の仕事を引き継ぐことに肯定的であることが目につきます。

子どもたちの夢はさまざま、夢が叶う子も、また叶わない子もいるでしょうけれども、夢や希望をたいせつに胸にひめて、社会に育ってほしいと思います。



ボランテアとは

開成中学校 下川陽子

「一年ボランテア体験」で、私の班は保育園へ行きました。こう言う度にとっても妙な気持ちになります。「ボランテア」と言えば私はどうしても老人ホームや障害者施設を連想してしまふからです。しかし、実際にやってみて、今はもうそんな事は言えなくなりました。

零歳児の担当となった私は初めてその苦労を実感しました。年下の弟妹はおらず、幼稚園卒な為、零歳クラスは全く未知なる世界です。

そこにあえて立ち向かえた事は貴重な体験でした。年齢や性別にとられず思いやる心を持つ事が大切です。

春さわやかに

夢の実現

五川四日 池田良天

誰でも子供の頃、将来は何になるかと聞かれて大きな夢を膨らました覚えがあると思います。

遠く明治の時代では「末は博士か大臣か」と出世を思考したのですが、現代ではプロ野球やＪリーグの選手やスタータレントが夢であり、ＩＴ時代の花形はプロプログラマーだそうです。

地元の二子玉川小学校の作文で「将来僕は宇宙飛行士になって宇宙に飛び出したい」と夢を描いた少年がいました。この度、宇宙開発事業団から見事「宇宙飛行士」に任命された星出彰彦さん（32才）がその人です。



高齢者の仲間作り

第六天会高齢者多荒井ひさ子

二十一年の時代が到来しました。私達高齢者は、これまでの経験や、知識を若い人と分かち合いながら、地域社会に参加する機会を持ちたいと思っております。

ボケない様、第六天会高齢者クラブでは、用賀地区会館へ集い、各部（全支部）それぞれの中に入り、お互いに交流を図りながら、教養を深めております。少子、高齢化、家族の近年です。高齢者は家にこもらず、健康自立を心がけ、仲間を作り笑顔でいろいろな活動を推進して行きたいと願っております。

世代を越えて

頑張ろう高齢者

瀬田千恵 大坪銀二

「六十才の高齢者」という記事をよく目にします。実際に会ってみれば高齢者とは思えない元気な壮年が多い。退職しても趣味を生かし新しい友人と共に励み、遊び、第二の人生を築く。

現に私も二十数年、いろいろな経験を経て、歳と見えぬ元気を振っている。然し、愛用のワープロも機能を失くし得ずタイプライター代り。ＩＴの目ざましい発展、これには残念ながらついて行けない。或るゲートボール大会で参加者の平均年齢八十歳とか。老人よ頑張ろう!! 私は「高齢者より「老人」の方が好き。ロマンがある。

近頃の裏おもて

鈴木武一

何年ぶりの愛香でアチコチ街の事故事件何と謂っても有りすぎた政界はじめ大嵐

ＫＳＤの裏おもてアレコレみんなやられ打ち万がドンドン刺込んで何時の間にかやらぬを越し悪が堂々とはびこって（選挙）辞職あたり繰り上げも変な処で息ふかし

容疑者グループ解散で内緒ばなしのバツチ族検察陣に睨まれてわいの問題はいくらも仕舞六年あつた（参議院）春風よく吹かないで通常国会すぎされば選挙の雲が持つて居る不況不景気もう飽きた

春物買って町おこし出来ますように頼みます貯金利息も上げて呉れッボクらの楽しみ減してよヤタラ倒産合併でオカネどうする預け先



郷土紹介

歴史と文化の散歩道

馬車公苑から砧公園の世田谷美術館へ向う「用賀七条通り」の歩道際、茶色のガードレールに「歴史と文化の散歩道」という文字が表示してある。これは東京都が設定した都内の二十三散歩道の一つが、ここを通り知られていない様に思う。東京都の「歴史と文化の散歩道」一番目はお堀端コース、二番目は日本橋・本所・深川コース、三番目は銀座・佃島コース、最後は二番目は高尾・八王子コース。コースの全長は二四〇・五キロメートルに及ぶ。さて、世田谷地域を通る

故郷からの便り

京都 室木照子

生まれ故郷を離れて十五年、「ひろば」は故郷を結ぶかけ橋です。二十一世紀は地方の時代と云われています。都市中心から、身近な街づくりの重要性が見直されてきました。人と人との心のふれ合い、住み良い街づくりが問われる時代です。そんな中で、委員の皆さんの力で、「ひろば」が果たしてこれら役割は、既に、時代を先取りしたものだと思います。京都に移って二つのことを続けています。瀬戸内寂庵先生に出会い、文章に綴られて十数年、今ではウィンドで作りの小冊子を、友人と共に年一回出して

ているコースは、その十三番目のコース。距離十五キロメートル。渋谷駅前をスタートし、松涛の東急文化村、駒場の東京都近代文学博物館、目黒区立駒場野公園を経て世田谷に入り鳥山川緑道に沿って松陰神社から世田谷城址公園、曙光苑、代官屋敷、郷土資料館へ。その後、秋葉で旧大森道、秋葉の碑が建っている所を横切り、馬車公苑正門、けやき広場から用賀七条通りを西に向う。砧公園内を通り大森運動公園から岡本の静嘉堂文庫、民家園を経て最後は花みず木並木を通り二子玉川駅に辿り着く散歩道。機会があったら東京のふるさとめぐりは如何。

(飯田)



トビックス

平成三年度ありがとう賞

その他、嵯峨小学校で、お母さん達と手話を学んで十年、手話コーラスや寸劇を演じ、聴覚障害の方々への理解を深めています。八十歳を超えて今、これから前向きに渡された人生を、大切に生きていきたいと願っています。

お互いに他人様の長所を見て、さりげなく褒めてあげたら、子供達も自信を持ち、地域に交流の輪が広がるのではないかと思います。

鈴木福徳長の「一節世を斬る七五調」は、その時々世相に向けての、一刀両断の斬れ味を、夫も毎回楽しみにしています。皆さんお元気で、一活躍を祈ります。

学ぶ

わが故郷の草木

五十丁目

森 光世

子供の頃から親しんだ多摩川の草木が私の故郷の風景です。

多摩川の上流にダムがでさるまでは、犀形船や砂利を採取する船が浮かぶほど水量がありました。

その頃は、大水で運ばれてきた種や草花が根付き、春先には堤のレンゲ、夏には河原の月見草、秋にはコスモスと野生の草花の多い所でありました。

明治四十年に渋谷から玉川まで電車が敷かれて、追いかけるように玉川に料亭が建ちはじめたのは大正の七、八年の頃であります。料理屋につきものは、柳に接ですが、二階の座敷から

わが故郷

昭和十三年に日独防共協定を記念して植樹された土手の桜や、近年の尾崎行雄ゆかりの花みず木通りなど、花と緑の自然がわが故郷に永く残ることを願っています。

この冬は平成になってから初めての大雪だったとか、春待つ心もひとしおの、昨日今日です。



52号に登場された皆さまは、自分だけの世界に閉じこもらず、人とのつながりの中で、さわやかに、いきいきしておられる様子がとても素敵ですね。

自分の夢を持つ、夢に近づき、夢を表現させる、そんな思いを胸に、何かを見つけない、春の光の中に一歩踏み出してみましょうか。

それとも、心地よい春の陽ざしにまどろみながら、果てしない夢を見続けましょうか... (折原)

保徳福祉センターです
tel. (3702) 1131